

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、今年度は、児童が自分たちでできる活動を考えるだけでなく、児童集会や縦割り班活動などの異学年交流を多く実施することができた。今年度、実施した活動を報告する。

2 実践内容

(1) 運営委員会の取組

運営委員会は、9名（5学年4名、6学年5名）で構成されている。前年度から、児童が主体となり、児童たちが学校生活を快適に送れるように考え、活動した。

ア 「金小のきまり」の見直し

高学年の学級で金沢小学校の規則で改善が必要と考えたことを話し合った。今まで禁止されてきたシャープペンシルや蛍光ペン、三色ボールペンについて話し合った。そして、きまりを守って使えば大丈夫そうだというものを見つけた。高学年児童に限り、二色ボールペンを使用できることになった。他の物を持ってくるはいけない理由は、運営委員会が児童全体に説明した。

イ 金沢小音頭

コロナ禍前まで運動会で踊っていた金沢小音頭を今年から実施した。踊ったことのある現6年児童が、各クラスを回り、踊りを教えた。運動会では地域の人と踊るとともに音頭ができるまでの歴史を紹介した。運動会当日は地域の皆さんと一緒に楽しく踊ることができた。



ウ NOいじめ集会

今年度は6月に実施し、いじめはなぜいけないのかを低学年にも分かりやすく伝えた。絵本をスクリーンに投影して発表した。

エ 金沢小まつり

児童が中心となり、みんなが楽しめる行事をつくることをねらいとし、今年から取り組んだ。午前中は、特技発表、人権メッセージ、委員会紹介をし、午後は金沢小ウォークラリーを縦割り班で行った。



3 成果と課題

学校をよりよくするために、課題から解決まで、児童たちが主体的に取り組んだ。児童中心にしたことで、達成感と自信に繋がったようである。自分たちで学校をよくしたいという気持ちが高まったことは大きな成果である。

課題解決や集会当日までの進め方を児童だけで話し合うには、時間が少なかった。時間に限りがあったため、教師が指示を出す場面も多かった。児童たちの主体性を大切にするためには、企画の段階から、児童たちと打ち合わせの場を設定する必要があると感じた。